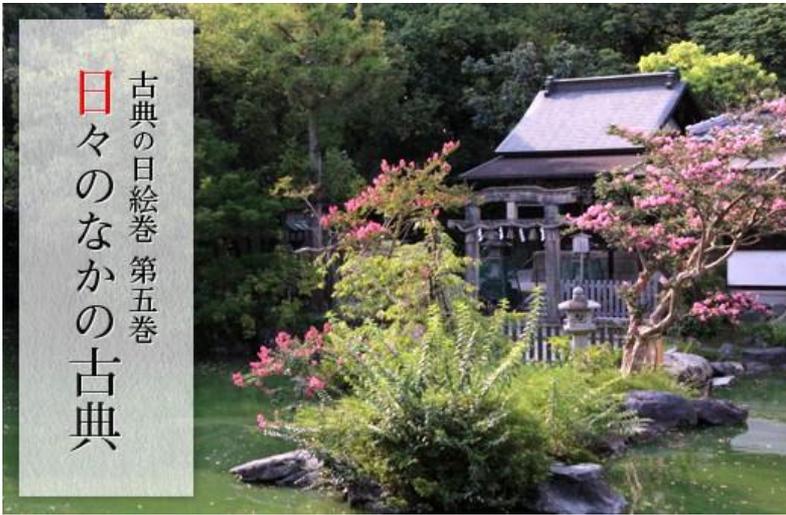


古典の日絵巻 第五巻
日々のなかの古典



九條池に浮かぶ巖島神社



唐破風鳥居の上部

第六号 平成28年9月6日 京都御苑の巖島神社

明治二年(1869)の東京遷都に伴い、京都御所周辺にあった皇族、公家の邸宅はほとんどが東京へ移転した。その後御所は荒廃し、門跡寺院の里坊などを含め200軒ほどが縮小していたこれらの「公家町」は消滅した。

明治十年(1877)に「大内保存事業」が始まり、公家町の跡地は整備されてほぼ現在の「国民公園 京都御苑」の姿になった。京都御苑の中に残っている明治以前の建物は、御所の他には蛤御門や寺町御門などの高麗門、九條家の茶室「拾翠亭(しゅうすいてい)」、明治天皇の産屋(中山邸跡)、そして公家(西園寺家・花山院家・九條家)の邸内にあった三つの神社などだけである。

その中のひとつ九條家の旧邸宅跡に残っている巖島神社は、市杵島(いちきしま)姫命、田心(たごり)姫命、湍津(たぎつ)姫命の三女神を祀り、祇園女御を合祀している。祇園女御とは言うまでもなく『平家物語』(巻第六祇園女御)に登場する白河法皇に愛された女性のことで、平清盛の母といわれる人である(清盛の生母は祇園女御の妹との説もある)

当神社は天明八年(1788)の京都大火の時に資料の大半を失っているが、昭和九年発行の『京都神社誌』(社寺研究会)には「九條家祖先の勧請にして、由緒詳かならざるも傳ふる處によれば、平相國清盛公安藝の巖島大神を崇敬し攝津兵庫の築島に一社を設けて神靈を勧請し、側らに清盛公の母儀祇園女御を祀る、後この拾翠亭池の島中に遷座あり、此地は旧九條家の邸に属せしより自らその鎮守となると」と記されている。御苑の巖島神社には母を大切にす清盛の思いが込められている。

なお社前の石鳥居(重要美術品・室町)は古雅の趣があつて、笠木(鳥居の上部)が唐破風形となっているのが珍しく、京都の三珍鳥居のひとつとして名高い。

NPO法人京都観光文化を考える会・都草

特別顧問 坂本 孝志